

# 茅ヶ崎 自然の新聞

18年9月号(273号)

【編集】  
茅ヶ崎自然の新聞編集委員会

【発行】  
茅ヶ崎市文化資料館  
〒253-0055  
茅ヶ崎市中海岸2-2-18  
TEL&FAX: 0467-85-1733  
Mail: shiryokan@city.chigasaki.kanagawa.jp



## 第20回 夏休み自然教室開催!

7月22日(土)・23日(日)の2日間、茅ヶ崎市文化資料館で「第20回夏休み自然教室」が開催されました。今回で20回目をむかえる「夏休み自然教室」は、茅ヶ崎自然に親しむ会や文化資料館と活動する会(自然部会)、その他中学生を含む多くの市民ボランティアの協力を得て開催されてきました。

バードカービング(エナガを製作)や、小枝や竹を利用したクラフト、竹細工、

昆虫コーナー、植物の拓本作り、顕微鏡コーナー、水生生物コーナー、野鳥コーナーなどで、身近な自然に関心を持ってもらうことを目的にさまざまな体験学習が行われました。またミニミニ自然観察会やビーチコーミングといった観察会も行われました。

2日間で784名の方が来場し大盛況となりました。参加した方々、ボランティアの皆様、ありがとうございました。

(文化資料館)



(左上:バードカービング、左下:ミニミニ自然観察会、右上:顕微鏡コーナー、右下:昆虫コーナー)

## Nature Of Chigasaki In Brief

ちがさき自然情報

## 初めての出会いヒオドシチョウ

4月1日、清水谷の木道(湿地にかかる木製の橋)の中ほどまで来た時、ふわっと飛び立ったチョウがいました。キタテハかな、と思いましたが、少し大きいような感じがして大急ぎで後を追いかけてきました。クヌギ林に入って落ち葉の上に止まったところで写真を撮り、家に帰り図鑑で調べたところ、ヒオドシチョウのみでした。10年以上清水谷に通っていますが、初めての出会いでした。

(芹沢 安井利子)

## ハマカキラン

今年も、ハマカキランが4月22日ごろから庭のすみに出て、5月の連休の後頃から花を咲かせ、7月5日現在、花の後が袋の様な形にふくらんで少し枯れ色がかっています。去年より1ヶ所少ない4ヶ所に、去年の10株より少ない7株でした。減ったので心配です。日当たりの良い場所には、15~16コの花が付き、成育の良くない場所の茎には4~9コ位の花が付いていました。

(富士見町 竹内民江)

## 柳島の花ごよみ(10)

霧雨が上がった5月9日、いつもの県立柳島青少年キャンプ場横の道路沿いから観察を始めました。サンゴジュ、ツルオオバマサキのつぼみを確認して反対側を見ると、満開のシロバナマンテマが道路脇に運つらなって咲いていて、以前より随分ずいぶん多いと感じました。昨年、キャンプ場内で群落になっていたマンテマの方も

早く比較して見たいと思いながら歩いていきました。

ウラジロチチコグサが、ひ弱な感じに背が伸びて並んでいる状態や、近くのヨモギの葉に、テントウムシの成虫が群がっている所と幼虫が集まっている所が分かれていて面白いです。

地面にタブの冬芽の芽鱗がが花びらのように落ちている所がありました。その中に何の花か分からないものがあり、しばらく立ち止まりましたが、「別の場所で探しましょう」と宿題にして先に進みました。

それから、トボシガラがきれいに開花している状態のものを皆でじっくり見ました。「葯やくの傍そばにあるブラシ状のものは何？」との疑問が出ました。それぞれに手持ちの図鑑を開いて探してもなかなか判定が難しかったのですが、何とか柱頭ちゅうとうだと落ち着きました。私は、ひとりでは調べられないタイプなので、皆で図鑑を見比べて確認できることが非常に嬉しい時間です。

ミチタネツケバナの根生葉こんせいようや、実の形が典型的な状態のものが見られ、アメリカフウロ、キュウリグサ、シロノジシヤの可愛かわいい花も咲いていました。

ここで、名前の分からない花をつけている枝が見つかりました。枝葉の様子からツルウメモドキと齊藤さんが判定し、花は雄花おぼなとして一件落着でした。他にも私が間違えてしまったミゾイチゴツナギを訂正してくださり、ありがとうございました。

野鳥では、カワラヒワがいろいろな鳴き声を聞かせてくれ、上空ではイワツバメが10羽以上も飛び交わしていました。

キャンプ場に入ってお目当てのマンテマを探すと、昨年と同じ場所にありまし

たが、今年の方が少ないと思いました。

しかし、予想以上にハマエンドウの青紫色の花、ハマヒルガオの濃いピンク色の群落に出会えて歓声を上げました。本当に海浜に似合う植物です。いつものハマボウフウの場所には、若い蕾の様々な状態が見られ、定点観察することができることは有り難いことです。

この付近のコバンソウには褐色の斑点があり、そのことも昨年ここでの話題になったことを思い出しました。

純白の花をつけたカジイチゴの立派な株があり、実のなる頃が楽しみです。ハマダイコンの花もきれいでした。今月も優しい花をいろいろ見ることができ幸せでした。

(浜之郷 河野正子)

### ツバメがえし

スズメ目ツバメ科、背は光沢のある青黒色、顔、のどは栗色、尾は長く二つに割れています。20cmほど。速く飛びながら昆虫を捕食する。今年も、資料館の周辺にツバメがやってきました。「飛んでいるな」という程度でしたが、もっと前にみたような気がします。

4月2日、福祉会館の芝生の上を2羽通過していったのが記録のはじめでした。4月6日、午前9時ごろ、民俗の展示物の花の世話の方と外に出ると道路や建物の空間を13羽ものツバメが飛んでいました。しばらく見ていると電線にとまるツバメが出てきていました。4羽、3羽、1羽が別の場所にとまり、のこりの5羽は、まだ飛び交っていました。13羽ものツバメが突然、どこからか飛んできて集まって来たのでしょうか。地面すれすれに飛び、電線を越す高さのところまで燕返し(ツバメの素早く身をひるがえして飛ぶようす)を行っていました。10時13分ごろまでの1時間の出来事でしたがやがて、どこかへ飛び去ってい

ってしまいました。私の生活経験から見ると、北部の丘陵地、小出川沿い、水田、まちなか、中央公園、中海岸住宅地などと自然環境の違いがあってもどこでも飛び交っているようです。



(文化資料館 小室明彦)

### ハシボソミズナギドリ

5月20日、台風一号の影響で久しぶりに湘南海岸一帯に各種の漂着物が確認できた。海藻類は別として、ハシボソミズナギドリの死体が茅ヶ崎海岸から鎌倉海岸にかけて大量に打ちあがったようだ。当日、我々の仲間のビーチクリナップの協力者であり、総合学習で魚類の分野の協力者でもある長谷川さんが、地産センターから東海岸一帯を調査されたところ、120羽の死体を確認された。その一部を撮影した。まだ生きていた。



(菱沼海岸 井川洋介)

## 夏は来ぬ・ホトギスの鳴き声を

“<sup>う</sup>卵の花の匂<sup>にお</sup>う垣根<sup>かきね</sup>にホトギスはやも来鳴きて・・・”

5月12日午後2時、行谷<sup>なみの がや</sup>新北陵病院付近で。5月27日午後0時半、市民の森駐車場付近で。

5月28日～31日、芹沢<sup>せりざわ</sup>大谷<sup>おおや</sup>自宅周辺で午前3時頃からほぼ一日中、特に5月31日は午後7時過ぎまで鳴き続けていました。

6月6日午前7時頃、芹沢大谷自宅の南側の林から聞こえました。5月末にウツギの花は盛りとなり、6月最初の日曜日、堤の田んぼは田植えが始まりました。

(芹沢 安井利子)

## 私、見ちゃったんです

昨年11月22日、清水<sup>しみず</sup>谷<sup>やと</sup>の保全作業のメンバーが不思議な雨を目撃したという記事が「自然の新聞 270号」に載りました。この日は兄の急病で作業を休み、現場に居合わせなくてとても残念に思っていました。

その後、三輪さんが調べられたところ、雨降らしの主は、ツマグロオオヨコバイらしいとのことでした。ごく当たり前に目にしている虫ですが、このような場面に出会ったことはありませんでした。

ところが5月17日、兄の見舞いの帰り道、我が家に程近いクヌギ林の縁で見ました。

2～3分で通り過ぎる道をいつものように30分以上もかけて、立ち止まったり、しゃがみこんだり、葉っぱを裏返したりしながら歩いていました。すると、ヤツデの葉の裏にきらっと光るものが見えました。のぞき込むとなんと！ツマグロオオヨコバイが葉に吊り下がり、脚をスリスリしながらおしっこ？をしていました。カメラを向け少しでも近くで、と

欲張ったところ逃げられてしまいました。いつものパターンです。それでなくてもすばしっこいのに、おしっこをして身軽になったらなおさらです。それにしても体のわりに大粒のおしっこでした。

清水谷でヒメコウソの幹<sup>みき</sup>に、立て並びにすらっと止まるツマグロオオヨコバイを見たことがあります、「せーの！」でおしっこをしたら、清水谷でおきた雨が降るような状態がおこるのかも。しかし、かなりの数がいなくてはいけないし、長時間続くともなると…。

以前、クロアゲハが地面で吸水しながらおしっこをし続ける姿を見ましたが、ツマグロオオヨコバイも木の幹から汁を吸いながらおしっこをしていたのであれば降り続きそうです。

チョウは体を冷やすため、と聞いたことがあります。ツマグロオオヨコバイは何のためでしょう。体を冷やすというには晩秋の出来事です。鳥は真冬でも水浴びもします。成虫越冬するツマグロオオヨコバイは、冬越し前に樹液から何かの成分を得ているのでしょうか。

似たような出来事が、毎年我が家の庭でも起きています。最初はミズキやサクラの葉が出揃<sup>そろ</sup>った頃なので、吸い上げた水があまって葉脈<sup>ようみゃく</sup>の先から落ちてくるのかと思いました。ところがなかなか消えないので不思議に思い、葉の上に落ちた水滴を触<sup>さわ</sup>ると粘<sup>ねば</sup>り気がありました。

ミズキの樹液をなめたことがあります。さらっとして無味<sup>むみ</sup>無臭<sup>むしゅう</sup>でした。そこでなめてみると少し甘味を感じました。落ちていた葉を見ると葉脈に白っぽい粉が付いていて、どうやらこちらの雨の主はアブラムシのようでした。

今年の秋には、ぜひツマグロオオヨコバイのおしっこの雨を体験してみたいものです。

(芹沢 安井利子)

## ヒメサユリ

2005年は自宅の庭にも近所の雑木林にも、テッポウユリが、あの特徴あるトランペットのような花弁を見せていた。

2006年になると、今度はオニユリが勢力を増し、トランペット状の花は姿を消していた。海岸の砂防林の木陰では、昨年あたりから、あまり見かけないヒメサユリの花がちらほらと見かけられるようになった。たまたま何の花かわからなくて、写真の記録だけは毎年とっておいた。今日、昔の資料を整理しながら、2005年5月2日の夕刊に「ユリ科大揺れ」というタイトルで特集号の記事がスクラップされていたのを偶然発見した。日本語のユリの語源は揺れる花、という意味の転用であるとのこと知った。



（菱沼海岸 井川洋介）

## ミンミンゼミ変だぞ

今年のミンミンゼミは変だぞ。温暖化のせいかな？早くも6月27日の午前7時30分頃、中央公園の市役所方面から「ミ〜ン、ミ〜ン」と2回ほど鳴き声を聞いたのです。幻聴かなと思い、隣に歩いていた人に確認すると確かに鳴いていたと言われました。安心したので知人数名にミンミンゼミが鳴いたことを報告しました。ところが、それ以降全く鳴き声を聞く事が出来ず、やはり幻聴だったのかと不安になっていました。

7月11日、朝の散歩をしている時に中央公園近くに住んでいる方から、「6月29日の午前中に、サティ側でミンミンゼミの鳴き声を聞いた」との報告を聞き、ようやく安心しました。

7月16日午前6時30分頃、パークタウンの敷地内で、自分の耳でミンミンゼミの鳴き声を確認するまで安心出来ない日々を過ごしていました。

7月17日午前8時頃、やはり中央公園内で、午後2時頃には北茅ヶ崎駅近くで、同3時頃には自分の住まいのマンション敷地内だと、この日は頻繁に鳴き声を聞くことが出来ました。ようやく自信を取り戻した一日でした。

17日は浜降祭の日でしたが、17時頃に神輿が当マンション脇で休んでいる時の事です。「ア〜ッ蝉が飛んでいる〜」「ア〜ッ鳥に食べられたあ〜」と、神輿の周りで遊んでいた児童たちの大きな声に、目の前の電線を見るとミンミンゼミをくわえたヒヨドリがいるではありませんか。カメラに収めようと急いで取りに行き、戻って見るとヒヨドリは飛び去った後でした。お神輿もドッコイ、ドッコイと遠ざかって行き、先ほどまでの喧騒としていた我が家の前も静けさを取り戻していました。

（茅ヶ崎 中原和男）

## 小出川の花ごよみ

6月1日(晴)、浜園橋から下町屋橋の間を歩きました。植物たちも一番成長する季節を迎えています。

土手の下の両側には、ガマ、ヨシ、オオブタクサが水面が見えなくなる程に伸びています。

私たちが歩く土手には、ウラジロチチコグサが目立っています。このところ急に増えたように思います。カタバミの黄色い花が咲き、よくみるとオクラみたいな実が来ています。実は触れても青くて、パチッとほじけるまでには熟してはいません。ミチヤナギも地味ながら葉の間に小さなピンクがかかったつぼみをつけています。おどろいた事に、この草も漢方では薬草として、**全草**をよく水洗いして天日で乾燥したものを煎じて1日3回に分けて服用するのだそうです(YAMA-KEI薬草より)。利尿、整腸にきくとあります。

ネズミムギの花も盛りです。イヌムギとカラスムギの違いを確認し、意外とイヌムギの方がこの辺には多いという事がわかりました。

ノイバラの葉に、ピンク色をした球形ですがところどころ角状のとんがりがあるものがのっかっています。つぼみかと思うくらいとてもきれいな玉です。帰って本で調べると、ノイバラマルタマフシと呼ばれるバラタマバチの虫コブだったのです。

虫コブといえばエゴノキです。小出川に親しむ会で植えた、木の実の散策路のエゴノキが青い実をつけています。その枝先にはいくつかのエゴノネコアシと呼ばれるエゴノネコフシアブラムシの虫コブがありました。エゴノネコフシアブラムシにとって、エゴノキはなくてはならない木なのでしょう。エノキやムクノキにも青い実が沢山ついています。秋には

鳥達のおいしい食料となることでしょう。クロガネモチにはうす紫色の**小花**があつまって秋の実の時の派手さはなく、清楚に咲いています。ハゼの木は黄緑色の**房状**に咲いています。下町屋橋の手前の左岸には、フシゲチガヤがひとかたまり風にゆれていました。昔、茅ヶ崎ではこの花が一面に生えていたのだそうです。それで「茅ヶ崎」という地名になったのだそうです。その頃の茅ヶ崎の風景を頭に思い浮かべ、のんびりした遠い昔を想像しました。

(円蔵 高橋静子)

## 香川のアオサギ(追伸)

5月10日付けで「香川のアオサギ」を報告させていただきました。香川の駅近く、浄心寺に接する林の中で、アオサギが**営巢**し、**雛**がかえって巣立ちしたらしいことを記録しました。アマチュアの観察なので、来年にも野鳥の専門家の確認がなされれば良いのではなかろうかと感想を述べました。

ところが、この後に野鳥に詳しい方の確認が行われたのです。このことを、追伸として報告させていただきます。

5月30日、この日の午後ゴルフの練習に出かけたのですが、親鳥が盛んに飛来してくるのが確認されました。いつもと異なり頻度が多く、二羽の親鳥が同時に寄ってきて、雛の声も「ジ、ジ、ジ」と大きいのです。

5月31日、この日も盛んに親鳥が飛来し、雛との会話を交わしている。どうやら巣立ちがあるのではないかと考えられた。

午前10時、谷戸仲間の三輪さんに連絡。午後1時に、文化資料館の野鳥調査のリーダーの小室さん、三輪さんが現地を観察。すぐに雛を確認して写真に収められた。私ではいくら見ても判らないも

のが、小室さんには一目で確認できたのだ。専門家というのはすごいものだ。

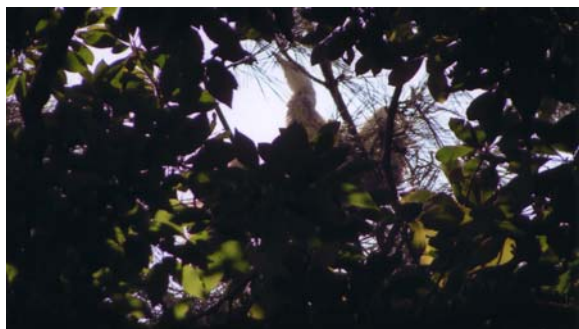
確認できたことは、雛は3羽であったこと。羽ばたきの姿勢を時々行うので巣立ちが近いと感じられたこと。巣は、タブとタブの間のクヌギに寄り添うように生えているマツの梢（かすえ）に懸（か）けられていた。

高さ9メートルほどで風があれば大きく揺れる場所であった。また巣の下で、白い糞が確認された。観察している間に、1羽の雛が親鳥と飛び立った。残りの雛は2羽である。

小室さんにお聞きした話では、シジューカラは卵を抱き始めるのはすべての卵を産み終えてからであるとのこと。またヨトウムシ等を捕（つか）まえるとくちばしに挟（はさ）んで振り回し、体内の糞（ふん）などを出して、残りの美味しい所を食べるのだそうである。

ところで、先日ムクドリがくちばしに何匹か餌（えき）をくわえながら、さらにくわえようとしていたので、どのくらいまでくわえられるのか聞いたところ、小室さんは笑いながら、「私にもわかりませんがどこかに限界はあるでしょう。しかし、複数のムシをくわえるのに便利な構造を持っているのかも知れません。」との話であった。

また手の甲（こつ）に2匹の蚊（やぶ）が止まっているのを見つけて、甲を拳骨（けんこつ）にして、筋肉を硬直させたので、この蚊は逃げられませんとおっしゃった。この話だけは本当か冗談か判りません。



（松風台 天野 謹）

### 横須賀市の菖蒲園

6月26日、横須賀市衣笠（しようぶ）の菖蒲園（えん）に行った。「菖蒲園は大明寺の国道の反対側の郵便局の所を回り…」とあったが、道を間違えたので土地の人に聞いたら丁寧（ていねい）に教えてくれた。初めてなので切符の買い方がわからず、案内人が買ってくれた。

園内は起伏（きりふく）に富んで、また清水も湧いている様子であった。数ヶ所の園地に菖蒲（しようぶ）が植えてあった。白や紫の薄淡色、濃い紫また赤味かかったものなどがあつた。去年移植したものはまだ成長していなかった。

水田には菅笠（すががさ）を被（かぶ）り着物を着た赤いたすきの女の人（おんな）も3人いた。咲き終えてしおれた花をつんでいた。

その他には、いつ来ても色々な花が見られるようにとの配慮から、藤（ふじ）・大紫（だいむらさき）・沈丁花（しんぢやうげ）・アジサイ、また柳・桜・メタセコイヤ・シャクナゲ・ナンバンハゼなどもあつた。サルビア・クロガネモチ・シモツケ草は薄いピンクであつた。

この日は、梅雨の晴れ間で三々五々参観者があつた。カメラ片手に撮影したり、老人会、車椅子の人も多くあつた。

「マムシに注意」の立看板がたくさんあつた。清水の湧く所にはマムシが多い。かまれると大変である。

（若松町 樋田豊宏）

## 青大将(アオダイショウ)

6月11日に、藤沢市<sup>つらぎ</sup>打戻<sup>うちもどり</sup>から<sup>あまぞ</sup>瀬郷<sup>せこう</sup>へ行く農道の御所見<sup>ごしょみ</sup> 外科の東側水田の間に、アオダイショウが道を横切っていた。

アオダイショウは、6月の晴れた蒸し暑い時期に大気をはいて道を渡っていた。その大きさは1mもあろうか。良く肥えて丸くしていて、皮は青黒くぎらぎら太っていた。自転車が近づくと、歯をむきだしてこちらに近寄ろうとしたが、急に向きを変えて草むらの中へ消えて行った。

それから6月の第4日曜日午前中、室田の特別養護老人ホームで、郷土会の講演会を聴いた帰り道、室田道を帰っていた際に道の中央付近で、車に轢<sup>ひ</sup>かれたばかりの蛇が死んでいた。あまり大きくはなく、茶色かった蛇であった。70センチぐらいであろうか、まだまだ若い蛇なのに運の悪いものだ。わざわざ道を横切ったばかりに轢<sup>ひ</sup>かれた模様である。

(若松町 樋田豊宏)

## 柳島の花ごよみ(11)

6月13日(火)、曇<sup>曇り</sup>。河野、吉田、齊藤で調査を始める。むしむしと暑い日。

キャンプ場わきの道に入ると、サンゴジュ、トウネズミモチが花盛り。特有の花の香りが一面にただよっている。さすがモクセイ科の植物だ。

西側の石垣よりに多くあったシロバナマンテマが花の終わりを迎え、枯れ色になっている中、たまに残り花の白が愛らしく目につく。

今年はエビツルの花、若い実が多い。秋になり熟した実を賞味してみよう。

テリハノイバラの大きな白い花があちこちに見られる。ノイバラの間では一

番大きい花ではないだろうか。

キャンプ場内に入る。場内の林内は本当にイヌビワが多い所。イチジクの実によく似た青い実をつけている。

キャンプ場の管理人さんはハマボウフウの保護に務めていらっしゃるだけに、大きな株、小さな株と、株数が多くなっているのがとても嬉しい。

さらに、去年も多くの株数を数えたハマカキランを見つけて歩くが、あまり見つけることができず、5株を数えたのみ。

今日は太陽の光も少なく、曇りの日のせいか、林間が暗く見つけにくかったのかもしれない。海岸にふさわしい植物がたくさん蘇<sup>よみがえ</sup>ってほしい。



ハマカキラン  
18.5.31.  
茅ヶ崎海岸



ハマカキラン

(東海岸南 齊藤溢子)



## 6月の小出川沿い

6月26日、雨あがりの小出川沿いを聖天橋から西久保方面に向かって歩いてみると、小出川の土手にヤブカンゾウの花がひととき鮮やかに咲いている。左岸の湿地の中に群生しているハンゲショウも白い色どりをしている。

この湿地には、シュレーゲルアオガエルが鳴き、冬にはクイナもいる。シュレーゲルアオガエルは、4月頃から鳴き始めている。

3月から4月にかけて見られる、ツマキチョウの雌雄も、かなりの数が見られる場所でもある。

しばらく歩くと、土手のフェンスにナワシロイチゴが、真っ赤な実をつけて、たわわになっている。ピンクの可憐な花と、赤いイチゴのコントラストが目をひく。

大曲橋から西久保方面に向かって歩くと、川の拡幅工事が進んで、新しい土手ができている。毎年この川の周辺で、カルガモのヒナと親の姿を見られたが、今年はまだ見ることができないようだ。コガモのオス・メスがまだいる。

川の中の低いコンクリートの上に、2羽のカワセミが止まっていた。よく見ると、1羽のカワセミが傍らにいるカワセミに餌をやっている。(親子のカワセミか?)とも思ったが、雄が雌に与えた可能性が強い。近づくと、2羽とも別々の方向に飛んでいった。

周辺をよく見ると、畑と用水路の斜面一面にイタドリの花が満開に咲いている。小出川の土手から西久保の田んぼを眺めると、稲の苗の青々とした田の中に1羽のアオサギや2羽のダイサギが、のんびり田んぼの中にいる。ひと時、癒される光景かもしれない。

わずかなヨシのある場所から、「ギョシギョシ、ゲシゲシ」と鳴くオオヨシキリ

の音が聞こえてくる。4月頃から、この場所に居続けている。鳴き声の方を見ると、電線に止まって鳴いている。このオオヨシキリ、西久保の田んぼの側のヨシ原が気に入ったようだ。

(香川 目黒啓子)

## へび

7月3日(月)、庭の太い松の根元に、長さ1m位のアオダイショウがいました。雨が少ないので水をまいたら出て来た、という感じでした。

(富士見町 竹内民江)

## 2006年度の自然教室に思う

ここ数年間、関係者の皆さんの努力の成果が実を結んで、来場者数が毎年増加傾向にあり、喜びに耐えません。世代の変化も伴っているのか、子供たちを連れてくるご両親の姿が非常に目立ちます。私は自然教室と総合学習を一体のものとして考えています。漂着物の観察に海岸を歩きながら、私自身がこの学習に最初に興味を覚えた、黒潮が運んできた外国からの漂着物との出会いを話すことにしています。

子供たちや、ご両親を含めて、何かを調べてみようと思う物事との出会いを大切にさせていただきたいと願っています。



ビーチコーミングの様子

(菱沼海岸 井川洋介)

## 柳島花ごよみ(12)

7月4日、最高気温29度と朝から蒸し暑い日でしたが、134号の歩道橋の上で、近くに海が見えると涼しいような気がしてくるから不思議です。県立柳島青少年キャンプ場の入り口に着くと、今まで気がつかなかったキカラスウリの咲き終りをサンゴジュの木の上に見ることができました。

ヨウシュヤマゴボウが一つの穂の中に蕾、満開、若い実と三様の状態が見られます。マサキ、エビツル、ノゲシ、ツククサ、ネズミムギなどが満開になっていました。途中のギシギシとナガバギシギシの違いを湘南植物誌で確認してもらおうと、実の形ではっきりエゾギシギシと分るものが見つかり、ささやかな発見ですがうれしいことでした。

トウネズミモチ、キレハノブドウのしっかり膨らんでいる蕾があり、ヤブガラシの花盤は虫を呼び寄せるためか美しく色づいていました。オオバイボタの葉には、久し振りにサツマノミダマシを見ることができました。

下水道終末処理場側ではシロバナマンテマが、満開の時の可愛らしい花が想像できない様な姿で枯れていて、季節の移り変わりを感じました。その施設の崖に広く這っているテリハノイバラの葉の全体に、まるで蕾のように虫コブがついていました。奥まで進むと、満開のハルジオオンとメリケンガヤツリなどが崖面に沿ってずっと広がっていました。

他にも満開の草は、「ここでは初めてかしら」のトウバナや、いつものイヌガラシ、オニタビラコ、ムラサキカタバミ、スイカズラなどでした。アカメガシワの細長い雄花が目立って咲いている木が見られました。(7月14日の小出川の土手には、雄株の木も雌株の木もあり、花を比較して見ることができました。)

いつもの道から海まで出る途中でジンガサハムシに、これも久し振りに出会えました。浜辺はキャンプ場のネット際まで工事が進められていて、ケカモノハシの株は無くなっていました。

気を取り直してキャンプ場を観察させていただくと、立派なハマボウフウが健在で、マンテマの花がわずかに残っていました。先月に8株ほど見つけたハマカキランは、その場所が下草刈りされてしまっていて、少し離れた所に1株のみしか見ることができませんでした。先月、辻堂海浜公園で見た多数の元気の良いハマカキランが思い出されました。この公園は手入れがよくされていて樹木の下でも苦勞せずに発見でき、園内の道際にあるハマカキランもしっかり守られていて、関係者の地道な努力が感じられました。

今日の宿題は、植物でないのは申し訳ないのですが、電線に止まっていた6羽の野鳥です。松林から飛んで来て電線にしばらく留まっていたのですが、ムクドリのように足はオレンジ色ではなく、顔も違います。後で考えるとおそらくコムクドリではないかと思いますが、確認できませんでした。

もし、関係する情報がありましたら是非教えて下さい。よろしくお願い致します。

(浜之郷 河野正子)

## マムシとヤマカガシ

8月8日、芹沢蓮妙寺の本堂の前で、マムシが今捕まえられて、殺されたようだった。大きさは40センチぐらい。尾の方がなくなっているようで、頭は棒などで打たれてあった。この日は蓮妙寺のお施我鬼の日で、大勢の人々が来ていたが、あまり騒がれていなかった。

芹沢では農薬がまかれて、死に絶えていると思っていたが、実物を見ることが

できた。

今年はマムシが当たり年だろうか。里山公園で、3匹もマムシが見つかっている。常盤さんの旧屋敷にもいたし、捕まえたと言う事も聞いている。里山公園には、「まむしに注意」の看板がある。座間市の谷戸山公園や横須賀市の菖蒲園にも注意を促す看板があるが、通路以外を通らないための脅しであると思っていたが、マムシが実際に里山公園にいる事が分かった。食いつかれてからでは遅い。

1日おいて8月10日朝、堤<sup>ゐの</sup>仲<sup>な</sup>谷<sup>や</sup>吉田牧場の本家の南、昔の旧道に、今年卵から蛇にかえたばかりの小さいヤマカガシの死骸<sup>しがい</sup>があった。朝まだ8時前で、道に横たわり、腹を上にして死んでいた。たぶん自動車に轢<sup>ひ</sup>かれたのであろう。小出地区を通ると、轢かれたものを時々見受ける。

今日は台風7号が房総沖を通り、陽気が良いので、道へ出てきたのであろう。気温の高い時ほど、道端で見かける。

(若松町 樋田豊宏)

月になると、虫コブの先端の孔<sup>あな</sup>が開き、羽のある成虫が飛び出します。

もう一つ面白い観察ができたのは、クモの巣にかなり大きめの蛾<sup>が</sup>がかかったばかりでバタバタしているのに出会いました。するとクモが水あめ状の幅広の糸を、丸い大きなお尻から出しながらすごい速さで近づき、一気にグルグル巻いて縛り上げました。そしてぴったりと吸い付いています。クモは消化液をかけて捕らえた虫を溶かし、その液を吸い込む体外消化をするそうです。

この日帰ってからの夕方のニュースでは、熱射病患者が続出したことが伝えられていました。



(浜之郷 齊藤和子)

## 小出川の花ごよみ

7月13日、曇り、気温30度。まだ梅雨は明けていない。降りそうで降らない日が続いている。暑いけれど日差しはないし、風もあるのでいつもの3人で浜園橋の右岸から下流に向かう土手の草いきれの中を歩き出しました。すっかり深い夏草の中にも小さな花がありました。

いろいろな植物に虫コブがつき始めました。なかでもエゴノキが面白いです。

エゴネコアシフシは、タマバエの幼虫の摂食に伴う刺激により、エゴの葉の組織が異常に増殖してできた虫コブです。ネコの足の肉球に似た、バナナ状の虫こぶにはそれぞれ数十匹の幼虫が見られ、すべてが雌<sup>メス</sup>でただ1匹の雌が元になり、雄<sup>オス</sup>なしで産卵する同属の雌集団です。7

## ぶらい小出川散歩

背丈ほどに伸び青々した夏草は、小出川の川岸や土手を覆い、野鳥の姿を遮り、特に双眼鏡やカメラでの視界が悪く、写りも悪く悔しい思いでしたが、野鳥にとっては、ねぐら(すみか)だったり、休息の場や捕食<sup>ほしよく</sup>の場だったり、楽園にもなっていることを思えば良いのかも知れない。ちょっとのつもりが長々としたぶらりとなり時間をつぶしてしまうが次の野鳥に出会うことができました。

8月16日、晴れ、午前6時20分～午前7時20分頃、場所は小出川の土手、萩園橋から大曲橋付近を往復。アマサギ9羽が休耕<sup>きゅうこう</sup>田<sup>でん</sup>で食べ物を探し、チョウ

ゲンボウが2羽舞っていた。チョウゲンボウとトビがニアミス、ドバトを追うチョウゲンボウなどと、足を止める場面も多かった。そのほかにカワセミのホバリング、ダイサギのくちばしの黒い鳥と黄色い鳥が舞う、コサギ、アオサギ、ゴイサギ、カルガモの飛翔、コヨシキリ(スズメ大で細めの野鳥で、ジュジュと鳴く)などの野鳥を見ました。

当日の観察結果は次のとおり。アマサギ9羽、アオサギ2羽、カルガモ16羽、カワセミ1羽、カワウ3羽(高圧線)、キジバト2羽、コサギ2羽、コムクドリ(途中の電線で3羽)、コヨシキリ1羽、ゴイサギ成鳥1羽・幼鳥5羽、スズメ群れ、ダイサギ2羽、ツバメ5羽、チョウゲンボウ2羽、トビ2羽、ドバト7羽、ハクセキレイ2羽、ハシボソガラス3羽、ハシブトガラス5羽、ヒヨドリ2羽、ムクドリ6羽。(註:羽数は確認最大数。)

またクマゼミが、ほぼ同一時刻に、おおまがり ぼし大曲橋付近1頭、しょうてん ぼし聖天橋付近1頭。ツクツクボウシが午前7時頃、矢畑183周辺で。ツクツクボウシの初日でした。

8月18日、晴れ、午前6時30分～8時、場所は小出川の土手(浜園～萩園橋～大曲橋付近～聖天橋、往復)。16日に確認できたの野鳥の種類他に、キジ1羽み、メジロ3羽、ササゴイ1羽の3種が加わりました。アマサギは7羽。(他の種類の野鳥の羽数は、16日とは違います。)

8月19日、午前4時35分頃、矢畑自宅の庭でカナタタキの初日。同日午前6時10分頃、コムクドリが16羽、矢畑183付近のカキノキやウメの葉についた虫をついばんでいるようだった。

コムクドリは8月に入って、よく電線に止まる。1羽が向きを変えると、他のなかま一斉に向きを変える行動を取った。ちなみに、コムクドリのくちばしと脚は黒い。ムクドリはくちばしと脚がだいた

い色である。地鳴きは両方とも「キュルキュル」。ムクドリと比べて全体的に白っぽく下面も白っぽかった。

コヨシキリはオオヨシキリと比べて、体色は淡く、「ジュジュ」とか「ジジ」という地鳴きし、オオヨシキリは「ギョ、ギョ」とか「ゲッゲッ」と地鳴きする。

(文化資料館 小室明彦)

## 越前クラゲ

8月22日、ヘッドランド東側海岸に大型クラゲの漂着があった。毎年のミズクラゲの打ち上げと考えそばを通り過ぎようとした。肉厚なクラゲであった。

これはビゼンクラゲとすぐ判断した。固体は50メートル幅に9個あった。もっと西側を歩けばあるかもしれないが、あまりの暑さに写真だけ撮影し帰宅。



(菱沼海岸 井川洋介)

## 「茅ヶ崎植物会」創立30年を迎えて

日本では、社会教育は学校教育よりも低くみられている。ところが、最近高齢化社会になり、学校教育を受ける期間よりも社会教育を受ける期間の方が長くなってきた。

茅ヶ崎市では、“茅ヶ崎植物会”が誕生した30年前には周囲の都市にくらべて、公立の公民館がまだ少なかった。茅ヶ崎市教育委員会社会教育課は、その欠点を補うために、茅ヶ崎市民による学習グループの結成を奨励した。しばらくして、人文関係のグループは多く生まれたが、自然関係のグループは結成されなかった。社会教育課は、この様な状態を改善するために、自然関係を学習するグループの結成を奨励することにした。一方、市民からもそのようなサークルの誕生を希望する意見が起こって来た。まず手始めにふつうの人が取り組みやすい植物関係のグループの結成を目指した。

1974年、社会教育課は、当時の神奈川県立博物館の館員高橋秀男先生を招いて自然観察会を催した。翌年(1975)、社会教育課は、茅ヶ崎市公民館の講義室で高橋先生を招いて、市民教養講座「茅ヶ崎の野外植物を調べる実習コース」を、5月から10月にかけて10回にわたり開催した。そのうち2回は、自然観察会であった。はじめは、講義室がいっぱいになる程の盛況であったが、次第に参加者が少なくなっていった。1975年、この講座が終わって、勉強の継続を希望する人たちによって“茅ヶ崎植物会”が結成された。1975年7月12日の事である。

それから8ヶ月、『大磯高麗山、山北の皆瀬川流域、伊豆城ヶ崎海岸、当市芹沢方面の植物観察会、神奈川県立博物館、国立科学博物館「シダ展」の見学会、茅ヶ崎市立第一中学校の斉藤俊一先生の

「淡水藻類」、日本電球工業会常務理事深津正一先生の「植物名の語源」、高橋秀男先生の「神奈川県のスミシ」についての講演会、テキストを用いての日本植物研究史、顕花植物の外部形態、植物命名規約に関する自主的勉強会、植物細胞観察実習会』を催している。大変な活動量であるが、これらの行事は植物についての知識を豊富にし、また自然認識を深めるために充分役立ったことと思われる。

1976年3月には、会員の研修結果を発表する場として、会誌「茅ヶ崎植物会報」も創刊されている。その後この会誌は、名前を「はまかきらん」と改め現在も続いて発行されている。そののち、会員の茅ヶ崎市内の植物を観察する希望者が次第に少なくなってゆき、市内の栽培植物を観賞する会へと内容が変化して行った。

社会教育課は、その後貝類などの勉強会を開いたが、グループを結成することは出来なかった。しかし、“自然に親しむ会”が結成され、植物、昆虫、鳥、水生生物、貝類などを学んでいる。

1979年、神奈川県立博物館を中心に「神奈川県植物誌」調査会が結成され、茅ヶ崎の“自然に親しむ会”や“茅ヶ崎植物会”の会員が数名、この活動に参加された。「神奈川県植物誌」調査会の活動で、湘南地区の調査の中心となったのは、平塚市博物館である。毎週木曜日に行われているこの活動に、茅ヶ崎植物会の数名の会員が参加してきた。それらの方々には植物に関する知識が非常に豊富になり、地道な調査などを続けておられる。最近では、次第に高齢になったので、後継者を育てる努力が必要であろうと思う。

これらの会や活動が、今後ますます発展されることを希望してやみません。

※『大磯…』は、会誌・茅ヶ崎植物会報、創刊号より引用

(藤沢市藤が丘 小原敬)

## おしらせ

### ●「茅ヶ崎自然に親しむ会」

『大磯・鷹取山裾野の里地を訪ねる』

日時：9月17日(日)

『真鶴の原生林を歩く』

日時：10月15日(日)

問い合わせは、

安井利子(52-3856)まで

### ●「清水谷を愛する会」

日時：10月1日(日)

9時30分～15時

集合場所：市民の森駐車場(堤)

問い合わせは、

田部許子(51-2955)まで

### ●「柳谷の自然に学ぶ会」

『トンボをみよう』

日時：9月24日(日)

9時30分～14時

『秋の谷戸をみよう』

日時：10月22日(日)

9時30分～14時

集合場所：小出支所

問い合わせは、

野田晴美(51-8489)まで

### ●「駒寄川水と緑と風の会」

『香川公民館雑木林観察』

日時：10月1日(日)

13時30分

集合：香川公民館

問い合わせは、

池田尚子(52-8919)まで

### ●「三翠会」

三翠会では、市内の川や水辺の生きもの調査やタゲリをはじめとする野鳥観察、お米(タゲリ米)づくりのお手伝いなどに取り組んでいます。ご協力いただける方は、下記までご連絡下さい。

事務局：河村まき子(87-8313)

## 記事募集!

自然の新聞では、みなさまからの投稿をお待ちしております。メール、FAX、手紙でOKです。

FAX：0467-85-1733

メールアドレス：

shiryokan@city.chigasaki.kanagawa.jp

★次号の原稿の締め切りは、11月1日(水)までをお願いいたします。

## 秋の自然観察会 「初秋の清水谷を歩く」開催!

秋の自然観察会「初秋の清水谷を歩く」を開催します。

貴重な自然が残る柳谷を散策し、自然観察をしながら、初秋の自然を観察してみませんか。

とき：9月30日(土)

じかん：10時～14時

ばしょ：茅ヶ崎市堤

(清水谷および市民の森)

集合場所：市民の森駐車場に10時

持ち物：歩きやすい服装、お弁当、水筒  
先着：20名

申込み：9月12日～(文化資料館まで)

